



# 法華経を持つ者は必皆仏也

貴方はホノマニ信仰しどう?



撮影：阪田兼光師 令和7年11月7日 於：清澄寺旭ヶ森 度牒交付式の砌

ロータスルート  
さあ、つながって行こう! みんなで花を咲かせよう!!  
Report  
http://www.myohokkein.jp/  
2026年(令和8年)1月1日発行  
「ろおたす」からの～通算426号  
Vol.45

御文に云、「此經を持申て後、退転なく十如是 自我偈を誦奉り、題目を唱へ申候也。  
但し聖人の唱させ給題目の功德と、我等が唱へ申題目の功德と、何程の多少候べきやと。」

御文に云、「此經を持申て後、退転なく十如是 自我偈を誦奉り、題目を唱へ申候也。  
但し聖人の唱させ給題目の功德と、我等が唱へ申題目の功德と、何程の多少候べきやと。」

更に勝劣あるべからず候。其故は愚者の持たる金も智者の持たる金も、愚者の然せる火も智者の然せる火も、其差別なき也。  
但し此經の心に背て唱へば其差別有べき也。

但し此經の心に背て唱へば其差別有べき也。

建治二年（一二七六）「松野殿御返事」

仕事といふのは本来、人に喜んでもらうためや役に立つため、そして人間が幸せになるためを目的として、みんな働いている。ところが昨今は、仕事＝お金という考えに走ってしまい、簡単にお金が手に入る方法、楽して稼げる方向に暴走しはじめている。そしてその考えが突き抜けると強盗や詐欺という罪を犯してしまった。原因は世の人々が正しい価値観や理念を失っているからである。

一方、メーカーの開発や商品の研究も、より良い人間が幸せを感じられるように、或いは更に便利になるために、日々努力を積み重ねられてきた。A.I.も元々は、そういう発想から生まれ、開発研究されてきたと思う。しかしこのA.I.は、本当に私達を幸せにしてくれるのだろうか。ユーミンがA.I.とコラボしたアルバムを出したという。松任谷正隆氏は「作詞作曲は任せない」というが、A.I.が作詞・作曲し、バーチャルな可愛い女の子が画面で踊り、コンピューターが歌う。チャットGPTで文章や寺報が創れて、素人がフェイク映像を簡単に作り、ネットに溢れている。もはや何が本物か見抜けなくなっている昨今です。

私が一番怖いと思うのは、ココです。世の中の全てのモノが、本物か偽物か判らなくなり、どれもこれもが疑心暗鬼となる。その先には人間同士の信頼関係や信用が崩壊する世の中が確実にやつてくると思うのです。

宗教で一番大切なことは「信じる」という事。人間同士が信じあえる世界を創るという事です。ある日の新聞一面に高市早苗総理が「非核三原則を見直す」との発言が掲載されました。理由は「有事の場合に困るから」と戦争が起きる事が前提の考え方です。一方でMVPを受賞した大谷翔平選手は「私は日本人である前に野球人。國も人種の違いも無く野球を愛してプレーをしていられるのだ」と同じ日の新聞に真逆の考え方方がトップに載っていました。

確かに他の國の脅威があるのは事実です。皆さんはどう考えますか？ 外国人のお釈迦様なら、どう言われるでしょうか？ 私たちが戦う敵は、どこにいるのでしょうか？

A.I.時代到来にマップフル恐怖

住職 新間智孝

我等の心の内に  
地獄も仏も  
おわします



シンマという姓

2025年11月14日(金)

4月に七面山へ行った時に、初めて神戸から車で身延へ行きました。その時、静岡のサービスエリアを過ぎたあたりで「新聞トンネル」というのを見ました。「第1」と「第2」の二つのトンネルがあり、今回またレンタカーで行くことになったので、動画に納めました。「新聞」という姓は、もともと浜松由来の名前だと聞いていて、静岡には多いようです。我が宗門内には現在、私以外に同じ姓が4人います。それぞれ「東京の」「静岡の」「島根の」と地名を付けてお互いに呼んでいます。実際には、その新聞さん達と直接の血縁は無いのですが、「遠い先祖で繋がっているんでしょうねえ」と話しています。今回、もうしばらくすると、「神戸の新聞さん」が一人増えることになりそうです。





# 安房·小湊界限

日蓮聖人は千葉県鴨川市の小湊という所で誕生されて幼名「善日丸」と名付けられます。彼でいうと幼名は「世海」です。日蓮聖人は16歳の時に、清澄寺の道善房という匠匠について出家し、名前を「蓮長」と頂きます。彼でいうと30歳で妙法華院の智孝について「智海」になったという事。だから日蓮宗の僧籍に正式に入る「度牒」という証を清澄で宗務総長から直々に下付されるのです。また日蓮聖人は、その後、鎌倉や比叡山・高野山・京都・奈良等で勉学を積まれて「お釈迦さまが本当に伝えたかった教えは何か」を追及されます。そしてこれからの末法の世は「法華経でなければ救われない」との確信を得られたのです。建長5年の4月28日、清澄に戻られて旭ヶ森にて朝陽に向かってお題目を唱えられ一生涯「お題目流布に命を捧げる」と誓われるのです。(1面写真)

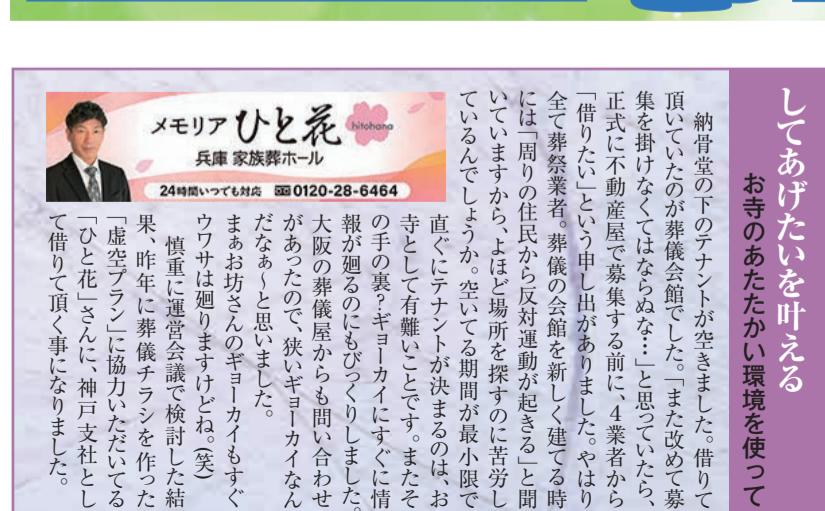
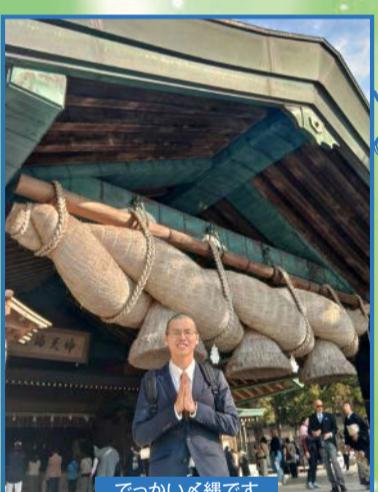
我日本の柱とならん 我日本の眼目とならん 我日本の大船とならん等と  
誓いし願、破るべからず 『開目抄』



今回縁あって一緒に度牒を受けたのは上は80歳、下は10歳の22名でした。

度牒の時もそうでしたか同じ日蓮宗の輩僧侶の方と知り合いになつて、交流を深めていく事も信仰を深める一つの手助けになると感じました。

信仰心とは、「特別な経験や出来事だけではなく、日常の感謝や学び、そして少ししづつの実践によつても深まつていくものなのだ」と感じています。これからも日々の生活や修行を通して、この小さな芽を大切に育てていきたいと思っています。



しかしお経に書かれている内容を学んでみると、なかなか面白い物語だと感じましたし、今回の巡拝で日蓮宗の歴史に実際に触れたり体験したりして学ぶことで、「仏様・日蓮宗ってすごいな」と感じる気持ちが信仰心を育んでいるんだと思います。

また読経練習も始めていて、お寺の信行会や家で練習を始めると「もっと読めるようになりたい」という心に自然となつていくのを感じます。

知識を身につけながら、実践を重ねていただくことが今の自分の信仰心の育成に繋がっています。

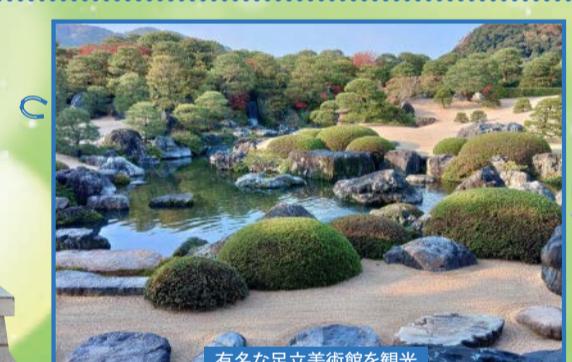
いう感謝を抱くようになると、その支えの根底にあるのは、人の力よりもさらに大きくな仏様のおかげだと思うようになり、信仰心が芽生えたのだと思います。

私は現在、その発芽したての小さな信仰心を育ててある真っ只中であります。そしてそれが、どういった時に成長し深まっているかというと「学び」による所が大きいと思います。私は、まだまだ仏教の事や宗派の知識がありません。

しかしある経に書かれていて内容を学んでみると、なかなか面白い物語だと感じましたし、今回の巡拝で日蓮宗の歴史に実際

A red circular logo featuring the text "智海" in white, stylized Chinese characters. Below the text is a black silhouette of a running horse.

# 鳥取・米子界隈



## 強い光を目指せ

2025年12月4日(木)



## 特別法話

## 「受けるは易し、持つは難し」

令和7年11月23日 御会式法話



御会式とは日蓮聖人への報恩感謝の行事です。

日蓮聖人は法華経・お題目の広布に身命を捧げられた方です。法華経というのは、一切の衆生が仏になれるという教えです。しかしあるいは先師や私自身も法華経を一生懸命に信じていますが、仏にならないような気がします。仏になる条件は「信じること」なのですが、これがナカナカ難しい。お経では信じることを「受持」といいます。受け持つ続けるということ。お釈迦様のお弟子の智慧第一の舍利弗尊者でも頭で理解するのではなく「信」もって仏になることを領解したのです。

私には娘がいるのですが一度学校をサボったことが私達にバレてしまい、それ以降、本当に学校に行ったのかついで聞いてしまいます。娘のことを信じていないから、尋ねてしまうのですよね。

どうしたら本当に信じられるようになるのかと、お経に訊いてみると「喜ぶこと」と書いてあります。大切なことは法華経に書かれている事や日蓮聖人が言っている事が自分に向けられたメッセージであると認識することが肝心です。ご住職が言われていることや寺報に書かれていることも、自分に言われていると受け取り、一つでも喜ぶことが出来れば幸せです。喜ぶことは自分だけではなく、喜ばせた相手も嬉しいになります。その喜びは独り占めせず、教えを次に伝えることが大事です。

信仰を継続するのにもう一つ大切なことは「誉める」という事です。お釈迦さまは、法華経信仰を持つ人に対して何度も誉めておられる。

私は小学生のころに祖父に褒められたことが、出家の動機になっています。皆様も孫が仏壇に手を合わせ、嫁が供物を。息子が墓参に行ってきた。たくさん誉めてください。そして自らも仏事を営み、お手本を示す。そして自分自身も誉めてあげてください。そうすると信仰の相続も難しくないですよ。

お経にはちゃんと現代の私達に向けたメッセージが書いてあります。如来（お釈迦さま）が亡くなった後に、この法華経を聞いて喜んだ人は成仏できる人なんだと。そしてその法華経の一句でも人に語ったならば、それは如来使ですよ、と書いてあります。皆さんは菩薩であり如来の使いなのです。そして日蓮聖人は大菩薩。法華経は菩薩としてのあり方を説く教えです。

自分一人だけで独り占めせず、尊い教えを人に伝え弘めて下さい。菩薩とは悟りを求める人です。

自分も行い、喜び、他に伝え、他を悦ばしめ、またその人も行い、喜び、他に伝える。

こうしてグルグルと「信」のサイクルが回り続いている世界を「淨土」と呼ぶのではないかと私は思うのです。でも私達はすぐに忘れてしまします。そんな時には、懺悔することも大切ですね。「受けるは易し、持つは難し」 私たち僧侶は、法師として正しく法を説き続けます。

それを聞いて皆さんは喜んで伝えてください。菩薩であり続けましょう。

周りにたくさんの菩薩仲間がいる。自分が忘れても誰かがまた喜ばせてくれます。仲間を増やしましょう。必ず帰ったら誰かに話す。グルグルのサイクルを回し続けましょう。そうした良い縁を周りに増やしていく事が幸せの近道です。「こんな素晴らしい学びの場があるよ」と、次回は他の方を誘って参加してください。仲間がいると帰り道に「今日の話は…」って、復習するので忘れにくくなります。

※来られた皆さんの為には復習を。そして来られていない皆様へ歓喜していただるために、講師のお話をまとめてみました。

キーワードは「此經難持」「聞法歡喜」「展転」「教菩薩法」「娑婆即寂光土」

## 皆さんは妙法華院界隈

## 人間力を信じ必ず開ける未来

我が弟子諸難ありとも  
疑う心なくば  
自然に佛界に  
いたるべし

当山の檀信徒の皆さんの信仰はどうでし  
ょうか？ そして私達は、どうすれば皆が  
幸せになれるのでしょうか？ 最後は一人  
一人の人間力にかかるかいると私は思いま  
す。全ての人々が、正しい理念と道徳觀を身  
に付けて、それに向けて皆が協力し合つて  
歩んでいければ、必ず淨土は実現すると思  
います。外国への偏見や差別、地球や自然へ  
の愛する気持ちを全ての人が持てるようにな  
ると戦争なんて無くなります。核も不要  
でしよう。昨年の話題でいうと牡蠣は全滅  
し、クマが何故都会に下りてくるのか。サン  
マが異常にこれたり不漁になつたりするの  
はどうしてか。それは私達と自然が繋がっ  
ていて、人間の行いに全ての事が起因して  
います。正しい教えを勉強して、正しい信仰  
を持ちましょう。そしてそれを人に伝えて  
いくのです。そこにしか私達人間が生き残  
る術は残されていないと思います。「どうせ  
悪い人は無くならないのだから…」その考  
え方が間違っています。皆で良い縁を作つ  
て進むのです。お寺に来て学んでください。そ  
うして進むのです。お寺に来て学んでください。  
そして…信じてください。

願以此功德 香華供養佛



## 貴方が来る



2025.12.7 神戸新聞



## 敗戦への歩み 平和振り返る

迷司会。清水上人の話と飼とシマアジの姿盛りで  
マルマルモリモリ盛り上がる忘年会

スハラシイ料理に暖かい拍手喝采

ピンコなのに3位はジャンケンで争う住職とB氏

日蓮聖人から直接伸びる御手綱

居酒屋でも盆おどりでも有りません

当山の固定万灯

一本バチのタイコ

ナイトステージ

被爆者運動テーマで講演

太平洋戦争爆弾から84年の8日

治安維持法、満州開拓團、關部隊、

兵庫の「語りつごう戦争」展

敗戦への歩み 平和振り返る

兵庫の「語りつごう戦争」展

敗戦への歩み 平和振り返る

★唱題のつどい  
★予告記事わくことの穴  
編集後記

時間はいずれも午前9時半  
1月13日 月 祖宗開祖聖日  
2月15日 月 祖宗開祖聖日  
3月13日 月 春彼岸日  
3月17日 月 春彼岸日  
3月23日 月 春彼岸日

今回の寺報は「信仰心」を  
テーマに作ってみました。  
日蓮宗新聞の1月1日号にも  
私の文章が掲載されています。  
正しい信仰が世に弘  
まれば皆が幸せになります。  
宗教の目的はそこにあるの  
です。皆さん！先祖供養だけ  
で終わらせないでください。

## ★信行会修了式

1月10日 (土) 午前10時～最終講義  
特別講師 清水隆将師 午後12時～修了式

1月13日 (月) 宗祖開祖聖日  
2月15日 (月) 祖尊涅槃聖日  
3月13日 (月) 宗祖開祖聖日  
3月17日 (月) 春彼岸日  
3月23日 (月) 春彼岸日

1月10日 (土) 午前10時～最終講義  
特別講師 清水隆将師 午後12時～修了式

1月13日 (月) 宗祖開祖聖日  
2月15日 (月) 祖尊涅槃聖日  
3月13日 (月) 宗祖開祖聖日  
3月17日 (月) 春彼岸日  
3月23日 (月) 春彼岸日

1月10日 (土) 午前10時～最終講義  
特別講師 清水隆将師 午後12時～修了式

1月10日 (土) 午前9時半～昼食は用意します  
1月29日 (木) 午前9時半～唱題後～  
2月13日 (火) 午前9時半～唱題後～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～  
3月7日 (土) 午後1時半～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

★運営会議  
★護持会役員会  
★護持会奉仕日

時間はいずれも午前9時半～  
昼食は用意します  
1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

★寒修行の日程  
★節分星祭り

時間はいずれも午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火) 午前9時半～  
3月17日 (火) 唱題後～  
3月7日 (土) 午後1時半～

1月10日 (土) 午前9時半～  
1月29日 (木) 午前9時半～  
2月13日 (火)